

『論語と算盤』^{そろばん}読書会



渋沢栄一の著書をもとに、「今」を話し合う読書会です。
2014～15年度の参加者を募集します。



日 程	2014年9月～2015年7月 月1回 毎月第3水曜日 全11回 2014年 ①9月17日 ②10月15日 ③11月19日 ④12月17日 2015年 ⑤1月21日 ⑥2月18日 ⑦3月18日 ⑧4月15日 ⑨5月20日 ⑩6月17日 ⑪7月15日
時 間	午後7時～9時
場 所	渋沢史料館 (東京都北区西ヶ原2-16-1、最寄り駅:JR王子駅、南北線西ヶ原駅)
募集人数	約30人
参 加 費	無料
内 容	第1回…渋沢栄一と『論語』についての講義、渋沢史料館見学 第2～11回…『論語と算盤』全10章から毎回1章ずつ取り上げ、 参加者全員でディスカッション
講 師	守屋 淳 (作家)
対 象 者	渋沢栄一や『論語と算盤』に関心があり、読書会での経験を仕事、 教育、研究、生涯学習、人事研修、地域活動などに活かしていこう という具体的な目標をお持ちの方。原則全回参加可能な方。
申込方法	申込書に必要事項をご記入の上、メール、ファックス、郵便で事務局 までお送り下さい。応募人数多数の場合は、主催者側で参加者の 選考を行います。

申込締切
2014年8月29日(金)
必着



公益財団法人
渋沢栄一記念財団
Shibusawa Eiichi Memorial Foundation

『論語と算盤』読書会

渋沢栄一（1840-1931）は約 500 社の企業の設立に携わり日本近代経済の基盤を築いた一方、600 余りの社会・教育事業を手がけました。幅広い分野で活躍した渋沢は『論語』を行動の拠り所とし、『論語と算盤』という著作を残しています。近年では『論語と算盤』の現代語表記本（角川ソフィア文庫、2008 年）や『現代語訳 論語と算盤』（ちくま新書、2010 年）などが相次いで出版され、さらに渋沢の思想から経営、仕事、人生のヒントを得ようとする関連書も多数出版されています。

こうした状況を受けて、渋沢栄一記念財団では 2011 年から『論語と算盤』をより深く掘り下げる読書会を開始いたしました。講師に『現代語訳 論語と算盤』の訳者・守屋淳氏を迎え、毎回 1 章ずつ取り上げて少人数で内容をじっくり語り合います。11 か月間の読書会終了時には、参加者一人ひとりがアドバイザーとなって『論語と算盤』の読書会を開けるようになることを目指します。『論語と算盤』の愛読者にも、これから読みたいという方にもご参加いただき、その経験を将来的に仕事、教育、研究、生涯学習、人事研修、地域活動などに活かしていただけることを願っています。



講師 守屋 淳

1965 年東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。大手書店勤務を経て、現在は中国古典、主に『孫子』『論語』『老子』『莊子』『韓非子』などの知恵を現代にどのように活かすかをテーマとした、執筆や企業での研修・講演を行う。『現代語訳 渋沢栄一自伝』『渋沢栄一の「論語講義」』（平凡社新書）『現代語訳 論語と算盤』（ちくま新書）『ビジネス教養としての「論語」入門』、『最高の戦略教科書 孫子』（日本経済新聞出版社）など。ホームページ <http://chinese-classics.jp/>

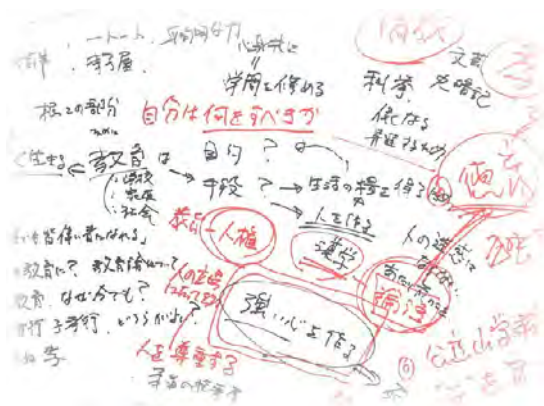
参加者のコメント

読書会にあこがれていました。おかげで大変楽しい経験をさせていただきました。教員なのでいつも教えていることが多いのですが、職種や世代を超えた異文化交流の楽しさ、「読む」ことの難しさと楽しさなど、様々な発見がありました。（教員、50 代、男性）

講師の守屋先生の博識、参加者個々人の経験に基づいた見識で、毎回、『論語と算盤』の新しい“読み方”が増えていきます。基本的な課題は、論語の時代、渋沢翁の時代、そして現代も共通に思えてきました。“今”を考える上で、大変参考になります。（公務員、50 代、男性）

渋沢翁の考え方を参加者と共有し、改めて現代に通じる学びを得ることの他、言葉に含まれる意味の捉え方が人によって違うこと、様々な業種・年齢の方の本に対する意見から現代の経済や社会全体に対する意見を聴けること、また聴いていただくことが勉強になりました。（東京都、20 代、女性）

参加者のバランスが取れていて、様々な視点の意見が聴くことができました。自分の考えを、立場の違う方に、どうわかりやすく話すかの訓練になりました。また自分自身のミッション、ビジョンを継続的に考えるととても良い機会にもなっています。（IT、40 代、男性）



申込み・問合せ（事務局）

公益財団法人 渋沢栄一記念財団 研究部

〒114-0024 東京都北区西ヶ原 2-16-1 Tel. 03-3910-2314 Fax. 03-3910-2849

E-mail: research-dpt@shibusawa.or.jp

<http://www.shibusawa.or.jp>